

1月の安全運転のポイント 平成28年1月号

交差点は最も事故の起こりやすい場所ですが、なかでも左折時は横断中の自転車や歩行者との巻き込み事故や衝突事故がよく発生します。そこで左折時における自転車や歩行者との事故を防止するためのポイントについてまとめてみました。

歩道を進行してくる自転車への注意

交差点を左折するときは、左後方や側方に自転車や二輪車がないかを確認することが大切ですが、その場合に見落としやすいのが歩道を進行してくる自転車です。図1に示したように、車道の左端を進行してくる自転車はミラーで確認できますが、歩道の自転車はミラーの死角に入って確認できないことがあるからです。また、交差する道路の歩道を進行してくる自転車も建物の陰などに隠れて発見が遅れたり見落とすことがあります。

こうした発見の遅れや見落としによる事故を防止するためには、交差点接近時には左後方や側方だけでなく歩道にも目を配り、自転車の有無をチェックしておくようにします。そして左折は徐行して進行し、ミラーだけでなく顔を振り向け目視によって左側方や後方の状況をしっかり確認するとともに、交差道路の歩道の状況や横断歩道の状況を確認します(図2)。横断してくる自転車や歩行者がいるときは必ず横断歩道の手前で停止して通過するのを待ちましょう。



図1

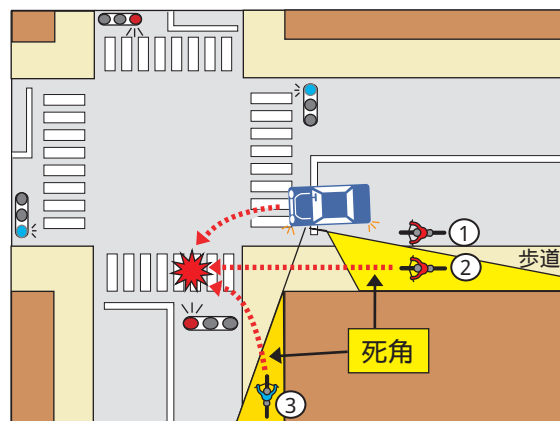
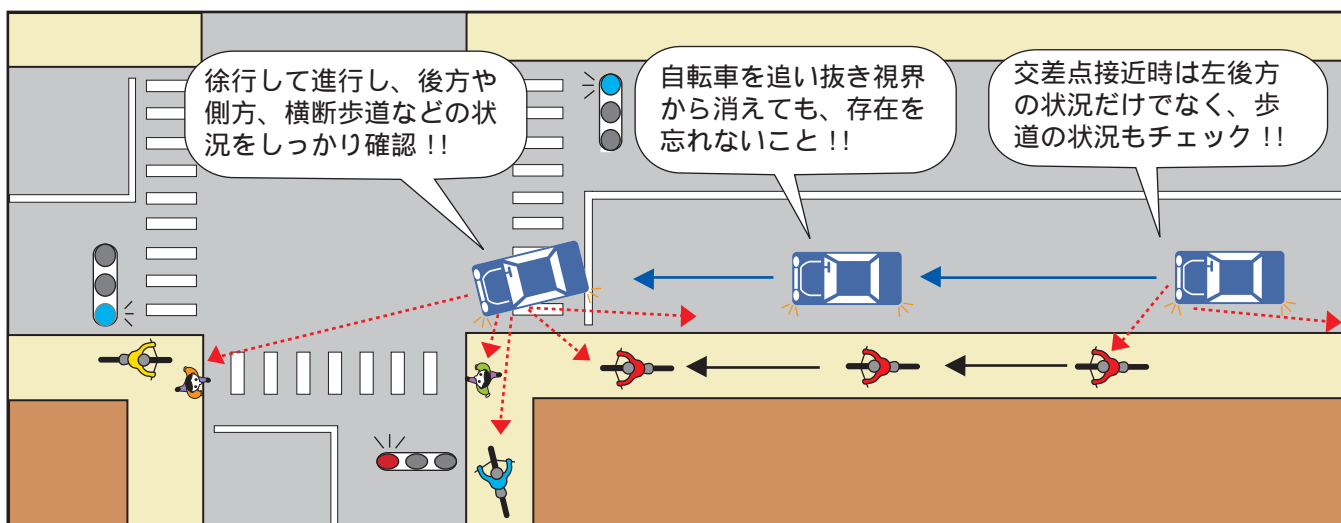


図2





他車の作る死角への注意

左折時は他車（特にワンボックスカーやトラックなどの車体の高い車）が作る死角に注意が必要です。

例えば、図3のように対向右折車が横断歩道の手前で停止していると、その先の状況が確認しにくくなります。また、図4のように先行左折車がある場合も横断歩道の右側の状況が確認しにくくなり、安易に先行車に続いて左折をすると、横断してきた自転車や歩行者と衝突する危険があります。

対向右折車が停止しているときは、横断してくる自転車や歩行者がいると考えて横断歩道の手前で停止し安全確認をしましょう。先行左折車に続いて左折するときも、追従して左折するのではなく、横断歩道の手前で一時停止して、必ず自分の目で横断歩道の左右の安全を確認しましょう。

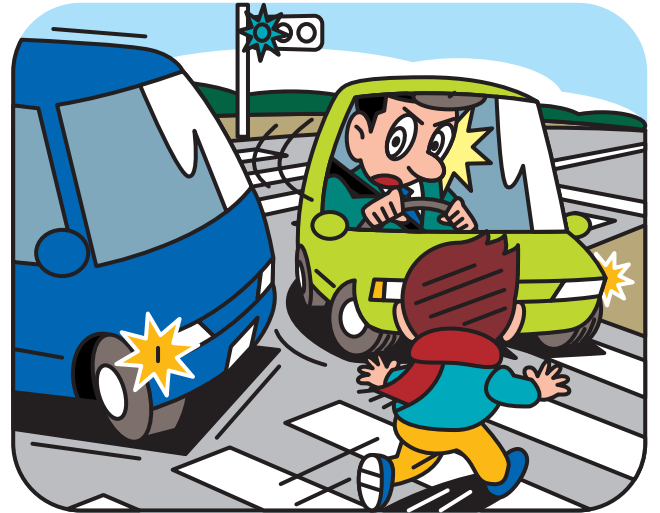


図3

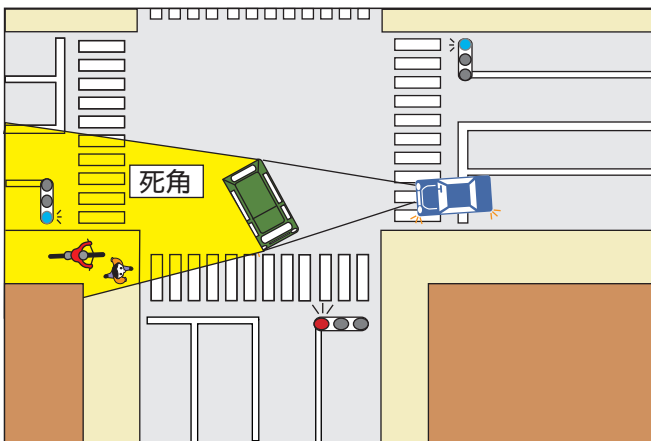
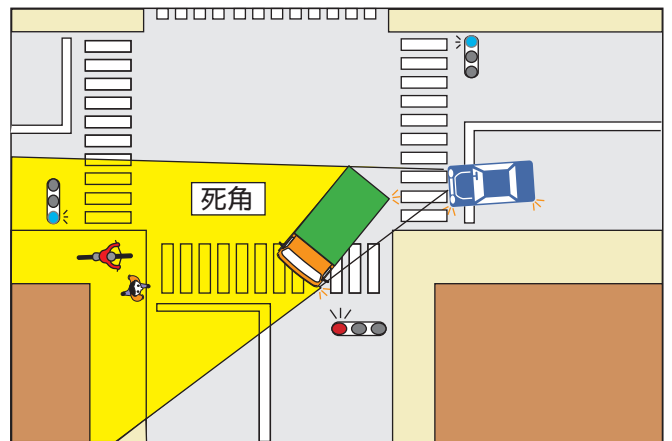


図4

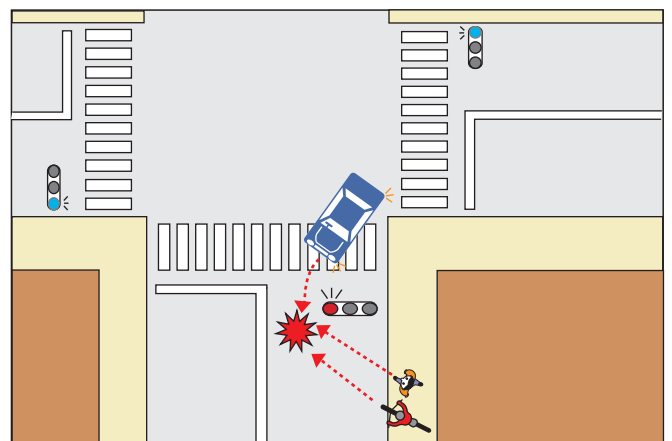


斜め横断の自転車や歩行者への注意

自転車や歩行者は常に横断歩道を通行するとは限りません。先を急いでいるときや横断歩道まで行くと信号が変わりそうな場合、急に雨が降ってきたような場合などは、その手前から道路を斜め横断してくるケースがよくあります（図5）。横断歩道を無事通過したからといって気を抜くと、思わぬ危険が待ち構えています。

左折していくときは横断歩道の状況だけでなく、その先にも目を向けて斜め横断してくる自転車や歩行者がいないか十分目を配りましょう。

図5



「ご相談・お申込先」